

精神保健福祉センター所報

令和元年度（第14号）



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

川崎市精神保健福祉センター

はじめに

川崎市精神保健福祉センター（以下、当センター）は、精神保健福祉法改正によって政令指定都市に精神保健福祉センターが必置となったことを踏まえ、川崎市リハビリテーション医療センター内の1課として始まり、平成18年4月に単独事業所となった。当センターは令和3年4月に障害者更生相談所と共に総合リハビリテーション推進センター（以下、総合リハ推進センター）になるが、それは単なる合併ではなく、全ての地域住民を対象とした川崎型の地域包括ケアシステム構築の中核的機関となることが求められている。また、新型コロナウイルス（COVID-19）の流行は、フィジカルディスタンス（物理的な距離を取る）における対人支援の困難さと、支援連携におけるデジタル技術活用の必要性を浮き彫りにした。これらを踏まえて当センター業務の方向について、自戒をこめて述べてみたい。

普及啓発や人材育成は、こころの健康問題が全ての世代・全ての対象に存在することを踏まえ、それぞれに応じたメニュー化が望まれる。これまで蓄積された当センターと各種組織団体とのつながりはその財産となるだろう。

地域移行・地域定着支援は、厚生労働省の進める「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築の動向を捉えつつ、協議の場を充実していく必要がある。

社会的ひきこもり対策は、ひきこもり地域支援センターの開設を機会に、関係者のネットワーク構築を進め、より早期に適切な支援が行えるようにしていく必要がある。

自立支援医療（精神通院医療）の判定、精神障害者保健福祉手帳の審査、精神医療審査会の退院請求は増加傾向にあり、適正な判定や審査が一層重要になっている。

精神科救急は通報等の件数の増加が続き、対象者も多様であることから、個々に応じた地域支援とモニタリングの強化が必要となっている。

こころの相談所（診療業務）は、精神疾患を抱え、孤立しがちな市民の支援を行ってきた。その役割は一層大きくなり、人材育成にも重要な役割を果たすことになるだろう。

自殺対策は、自殺対策総合推進計画を踏まえ、ゲートキーパー研修、自殺未遂者支援地域等に取り組んできたが、川崎型の地域包括ケアシステム構築のプロセスやアウトカムと重ねつつ、その発展を観察していく必要がある。

この数年、当センターでは、川崎型の地域包括ケアシステムの構築に向けて、調査研究を重点課題としてきたが、支援連携におけるデジタル技術活用の視点を含めてさらに取り組んでいく必要がある。

令和2年12月

川崎市精神保健福祉センター所長
竹島 正

目 次

はじめに

I 精神保健福祉センター概要

1 施設	1
2 沿革	1
3 組織及び業務内容	3
4 職種別職員数	4
5 障害者センター概要	5

II 業務実績

1 普及啓発	
(1) 講演会	7
(2) 普及・啓発パンフレット等発行状況	7
2 教育研修	8
3 技術指導・技術援助	9
4 組織支援・連携協力	12
5 精神保健福祉相談	
(1) こころの電話相談	14
(2) 特定相談及びその他の相談	15
(3) 家族セミナー	16
(4) だるま〜ぶ	16
6 地域移行・地域定着支援、医療観察法	
(1) 地域移行・地域定着支援	17
(2) 医療観察法対象者への地域支援	19
7 ひきこもり・思春期相談	
(1) 社会的ひきこもり対策事業	20
(2) 思春期相談（特定相談事業）	22
8 自立支援医療（精神通院医療）・精神障害者保健福祉手帳	
(1) 自立支援医療（精神通院医療）	24
(2) 精神障害者保健福祉手帳	25

9	精神医療審査会	26
10	精神科救急	
(1)	精神科救急医療体制の概要（令和元年度の体制）	28
(2)	精神科救急医療情報窓口	29
(3)	精神保健福祉法条文別の診察結果等状況	29
(4)	精神保健福祉センター・障害者センター等事例検討会議	30
11	こころの相談所（診療業務）	
(1)	診療時間	31
(2)	診療実績	31
(3)	酒害相談実績	32
12	自殺対策	
(1)	川崎市の自殺の現状	33
(2)	推進体制	33
(3)	調査研究等	34
(4)	普及啓発	34
(5)	人材育成	34
(6)	自死遺族支援	35
13	調査研究等	
(1)	精神保健福祉センター研究倫理及び利益相反に関する懇談会	36
(2)	精神保健福祉センターの調査研究内容	36
14	障害者更生相談所南部地域支援室	38
15	井田障害者センター	41
16	百合丘障害者センター	45

I 精神保健福祉センター概要

1 施設

(1) 総務係、企画調整係、診療相談係、自殺予防対策担当、ひきこもり・思春期相談担当、精神科救急担当

所在地 川崎市川崎区東田町8 パレールビル12階
連絡先 電話番号(代表) 044-200-3195
FAX番号 044-200-3974

(2) こころの相談所(診療相談係兼務)

所在地 川崎市川崎区東田町8 パレールビル4階
連絡先 電話番号 044-201-3241
FAX番号 044-201-3240

2 沿革

(1) 精神保健福祉センター

平成14年4月 精神保健福祉法の改正により、政令市に精神保健福祉センターが必置となったことをふまえ、川崎市リハビリテーション医療センター(昭和46年開設、旧名称社会復帰医療センター、所在地:中原区井田)内の1課として開設

平成18年4月 障害者自立支援法の成立に伴う体制整備と、精神科救急医療体制の拡充等を図るため、リハビリテーション医療センターから独立し単独事業所となり川崎区内に移転同時に、こころの相談所を精神保健福祉センターの診療相談係に組織改編

平成20年4月 リハビリテーション医療センターの再編整備に伴い、同組織内の社会参加支援センター地域ケア(社会的ひきこもり相談)担当を、精神保健福祉センターに移管また、当センター及び障害者更生相談所の分室機能をもつ北部リハビリテーションセンター百合丘障害者センターを麻生区に開設

平成22年4月 国の地域自殺予防情報センター運営事業実施通知を受け自殺予防対策担当を設置

平成24年4月 地域ケア担当に特定相談事業(思春期相談)を合わせて「ひきこもり・思春期相談担当」に名称変更

平成25年4月 「精神科救急担当」を精神保健課より移管

平成27年5月 現在地に移転

平成28年4月 地域リハビリテーションセンター整備に伴い、障害者更生相談所南部地域支援室が川崎区に開設され、当センターの地域支援業務を南部地域支援室に移管また、中部リハビリテーションセンター井田障害者センターを中原区に開設

(2) こころの相談所

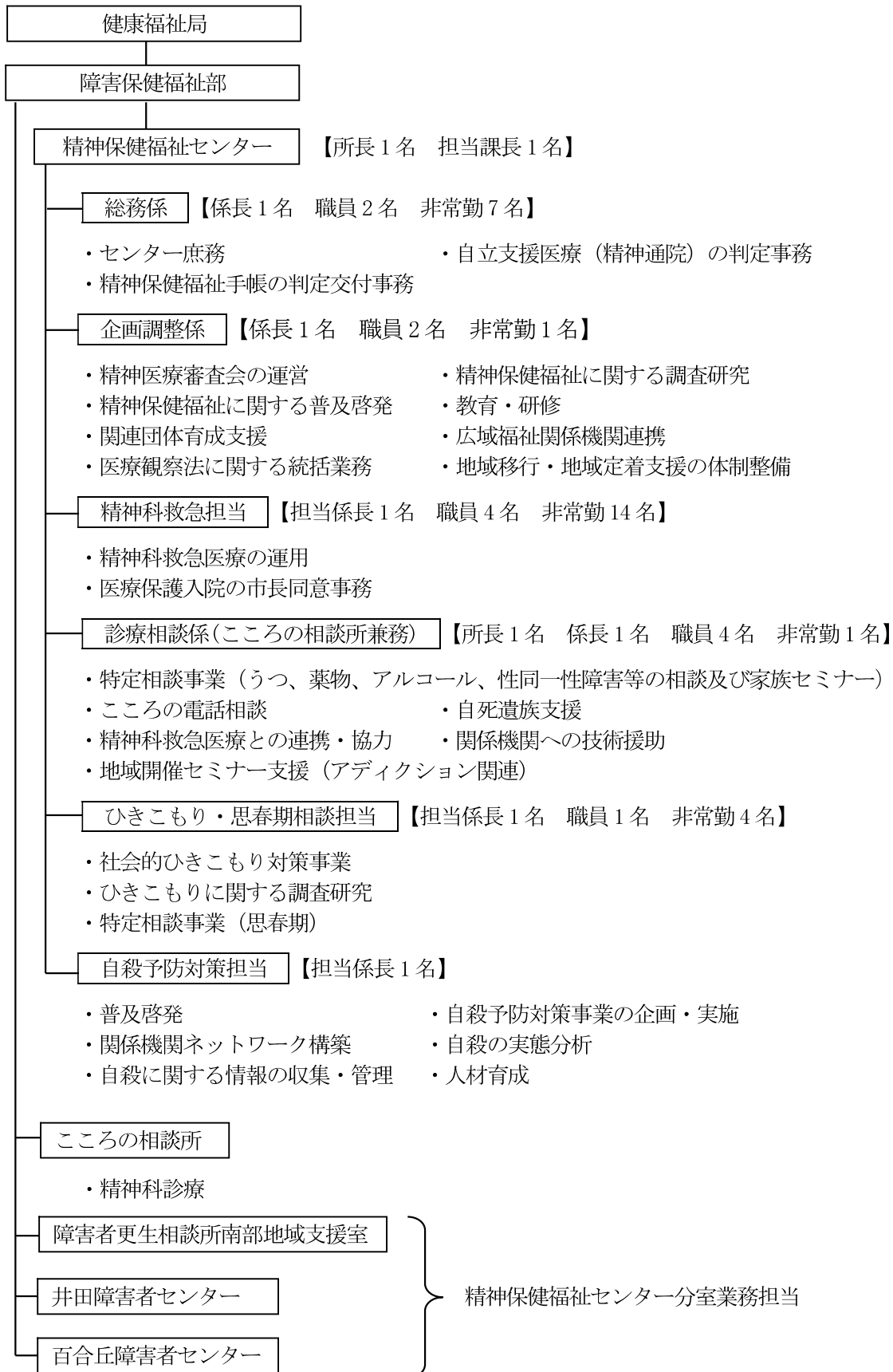
昭和 42 年 川崎南部エリアを拠点とし、外来診療機能をもつ相談機関として、「精神衛生相談室」の名称で、川崎区に開設

平成 元年 「精神保健相談センター」に名称変更

平成 14 年 「こころの相談所」に名称変更

平成 18 年 精神保健福祉センターの移転に伴い、「診療・相談係」と兼務

3 組織及び業務内容



4 職種別職員数 (単位:人)

平成31年4月1日現在

職 種 組 織	全体 総数	医 師	一 般 事 務 職	社 会 福 祉 職	保 健 師	心 理 職	看 護 師	非 常 勤
総数	22	2	3	12	4	1	0	27
所長	1	1						
こころの相談所 所長	1	1						
担当課長	1				1			
総務係	3		2	1				7
企画調整係	3			3				1
ひきこもり・ 思春期相談担当	2			2				4
診療相談係 (こころの相談所兼務)	5		1	1	2	1		1
自殺予防対策担当	1				1			
精神科救急担当	5			5				14

*全体総数は非常勤職員を含まない

(職員配置数) 常 勤 22 名
非常勤 27 名

5 障害者センター（百合丘・井田・南部地域支援室）概要

(1) 施設（開設順）

ア 百合丘障害者センター（北部リハビリテーションセンター内）

開設日	平成20年4月1日
所在地	〒215-0011 川崎市麻生区百合丘2-8-2
構造	鉄筋コンクリート
建物総床面積	651.3 m ²
設備	事務室、診察室、面接室、会議室、機能訓練室等

イ 井田障害者センター（中部リハビリテーションセンター内）

開設日	平成28年4月1日
所在地	〒214-0035 川崎市中原区井田3-16-1
構造	鉄筋コンクリート
建物総床面積	822.9 m ²
設備	事務室、診察室、面接室、会議室、機能訓練室等

ウ 障害者更生相談所南部地域支援室

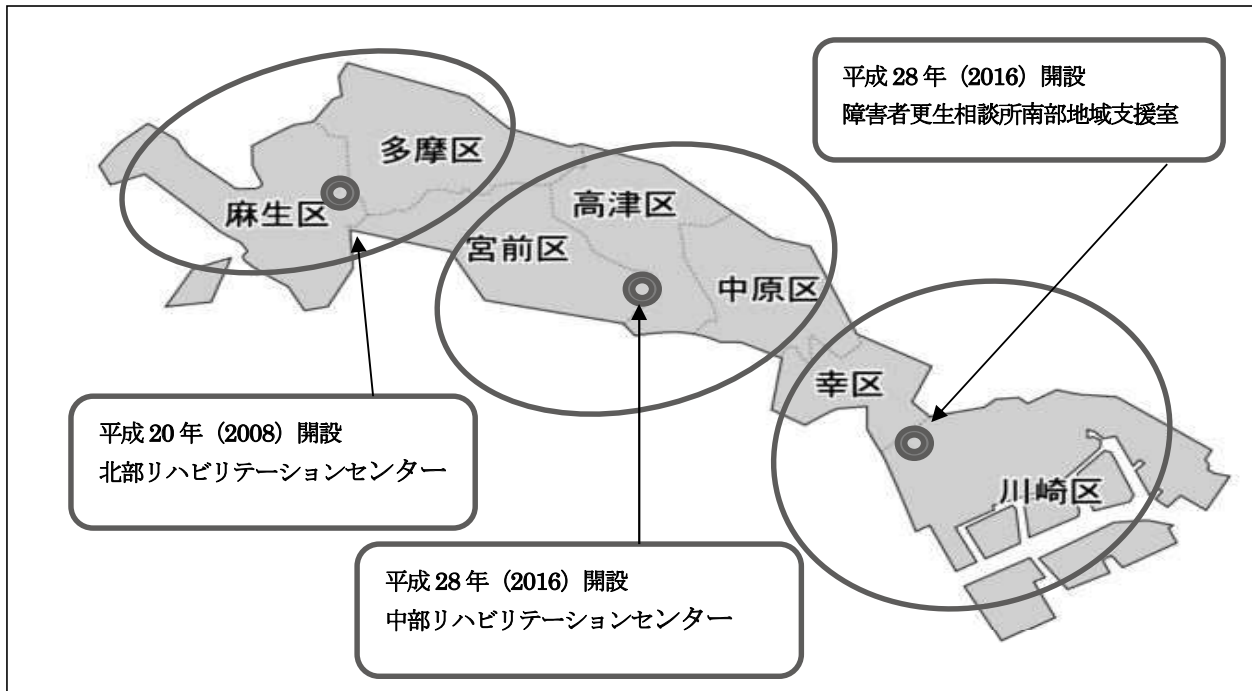
開設日	平成28年4月1日
所在地	〒210-8570 川崎市川崎区東田町8番地 パレールビル12階
構造	鉄筋コンクリート
建物総床面積	90.0 m ²
設備	事務室、面接室等

*診察等は、精神保健福祉センター及び障害者更生相談所の設備を活用

(2) 沿革

- 平成16年12月 昭和47年に開設した身体障害者更生相談所と昭和63年に神奈川県から委譲された知的障害者更生相談所を合体させ、昭和63年より障害者更生相談所を開設、また、平成14年には大都市特例により精神保健福祉センターを開設した。
「新かわさきノーマライゼーションプラン(障害保健福祉計画)」によりこの障害者更生相談所と精神保健福祉センターの分室機能を持つ、「地域リハビリテーションセンター」を市内3ヶ所に設置する計画を公表
- 平成20年3月 専門的かつ総合的なリハビリテーションサービスの提供、地域生活支援型施設への機能転換等をめざし、「リハビリテーション福祉・医療センター」の再編整備を進める「川崎市地域リハビリテーションセンター整備基本計画」を公表
- 平成20年4月 多摩区、麻生区を所管する1か所目の地域リハビリテーションセンターとして北部リハビリテーションセンターを開設
川崎市直営の百合丘障害者センター、民間の百合丘障害者センター在宅支援室、日中活動センター、地域生活支援センター、障害者就労援助センター（平成21年4月）を併設し、官民協働で事業を開始

平成 28 年 4 月 中原区、高津区、宮前区を中部圏域として所管する中部リハビリテーションセンターを開設
中部リハビリテーションセンター内に川崎市直営の井田障害者センター、民間の井田障害者センター在宅支援室、日中活動センター、地域生活支援センターを設置し、官民協働で事業を開始
また、川崎区、幸区を南部圏域として所管する川崎市直営の障害者更生相談所南部地域支援室を開設



II 業務実績

1 普及啓発

(1) 講演会

表II-1

	名称・テーマ・講師	日時・場所	対象・参加者数
1	ひきこもり市民講演会 みんなで考えるひきこもりの支援 古茶 大樹 (聖マリアンナ医科大学病院) 池上 正樹 (KHJ 全国ひきこもり家族会連合会) 西野 博之 (フリースペースえん・たまりば) 稲垣 篤哉 (ひきこもり経験者)	2月20日(木) 川崎市医師会館	一般市民・関係機関 100名
2	こころの健康セミナー 講演①「睡眠のメカニズムとアルコールの影響」 講師 田中 克俊(北里大学大学院) 講演②「アルコールの心身への影響」 講師 松下 幸生(久里浜医療センター)	9月28日(土) 高津市民館	一般市民 177名
3	職場の安全・安心セミナー ① 「職場のメンタルヘルス」 ～うつと人間関係～ 講師：張 賢徳 (帝京大学附属溝口病院) ② 「みんなでつくる働きやすい職場環境」 講師：吉川 徹 (労働安全衛生総合研究所)	11月12日(火) 川崎商工会議所	職域・産業保健関係者 61名

(2) 普及・啓発パンフレット等発行状況

表II-2

	名称	対象者	発行・作成部数
1	知ることからはじめるピアサポート	市内相談支援 従事者関係者等	300部
2	リーフレット「あなたに知ってほしい」	一般市民	5,000枚
3	チラシ「ほっとラインとかわさきこもれびの会」のお知らせ	一般市民	3,000枚
4	自殺対策強化月間 ポスター「あなたは「ひとり」じゃない」	一般市民	600枚
5	ポスター「こころの健康セミナー」	一般市民	1,200枚
6	クリアファイル「ひとり、ひとりがゲート キーパー」	一般市民	7,000枚
7	ボールペン「ひとりで悩まないで一緒に 考えよう」	一般市民	8,000本
8	川崎市自殺対策の推進に関する報告書 (平成30年度版)	関係機関・関係者 ・一般市民他	300部

9	映画広告掲出及びサンプリング	一般市民	2,000部
10	うつ病リーフレット「うつ病を治療するあなたへ」	一般市民	1,000部

2 教育研修

表Ⅱ-3

	名称・テーマ・講師	日時・場所	対象・参加者数
1	精神保健福祉業務従事者基礎研修（第1回） 「気分障害（躁うつ病）の基礎知識と概要」 講師：中川 正俊（田園調布学園大学）	8月26日（月） 高津区役所5階 第1・2会議室	市内精神保健福祉従事者 58名
2	精神保健福祉業務従事者基礎研修（第2回） 「統合失調症の基礎知識と対応」 講師：竹林 裕直（栗田病院）	9月25日（水） 高津区役所5階 第1・2会議室	市内精神保健福祉従事者 50名
3	精神保健福祉業務従事者基礎研修（第3回） ①精神保健・精神疾患の基礎知識 講師：大塚 俊弘（川崎市こども未来局） ②「面接」の基礎知識 講師：山中 達也（山梨県立大学）	10月28日（月） 川崎市医師会館	市内精神保健福祉従事者 ①55名 ②51名
4	精神保健福祉業務従事者基礎研修（第4回） 「発達障害の基礎知識と対応」 講師：阿佐野 智昭 （川崎市発達相談支援センター）	1月14日（火） 川崎市医師会館	市内精神保健福祉従事者 47名
5	第1回 自殺予防セミナー 「自殺予防ゲートキーパーという役割」 ～身近にある『死にたい』に気づいて向きあ う～ 講師：張 賢徳（帝京大学附属溝口病院）	7月9日（火） エポックなかはら （川崎市総合福祉セン ター）	医療・福祉関係者 65名
6	第2回 自殺予防セミナー 「自殺予防ゲートキーパーという役割」 ～いつきく？ 何きく？ どうつなぐ？～ 講師：張 賢徳（帝京大学附属溝口病院）	11月22日（金） エポックなかはら （川崎市総合福祉セン ター）	医療・福祉関係者 45名
7	第1・2・3回地域包括ケアシステムにおける 自殺対策研修 ① 「川崎市の自殺対策」 講師：竹島 正（精神保健福祉センター） ② 「複雑・困難な背景を有する人々を支援 するために」大塚 俊弘（こども未来局） ③ 事例を用いたグループワーク	第1回 7月3日（水） 北部リハビリテーショ ンセンター 第2回 7月10日（水） 川崎市産業振興会館 第3回 7月31日（水） 川崎市医師会館	自殺対策に係る 医療・相談機関従事者 第1回 14名 第2回 18名 第3回 45名

8	かかりつけ医うつ病対応力向上研修 講師 竹島 正(精神保健福祉センター) 石垣 達也(東横恵愛病院) 長谷川 洋(長谷川診療所)	11月2日(土) 川崎市医師会館	医師 川崎会場 53名 (県内5回 261名)
9	パーソナリティ障害の理解と対応 講師：二宮 正人(相模原協同病院) ※井田障害者センター主催	9月13日(金) てくのかわさき	精神保健福祉 関係機関職員 84名
10	難治性うつ病の理解とアプローチ 講師：早坂 友成(杏林大学保健学部) ※井田障害者センター主催	1月23日(木) 川崎市医師会館	精神保健福祉 関係機関職員 43名
11	「精神障害とご近所トラブル」 講師：姜 文江(弁護士) ※南部地域支援室主催	12月15日(日) 川崎市医師会館	地域支援者 88名
12	摂食障害の基礎知識と対応について 講師：河合 啓介(国府台病院) ※百合丘障害者センター主催	1月24日(金) 川崎市医師会館	精神保健福祉 関係機関職員 42名

3 技術指導・技術援助

表Ⅱ-4

	名称・テーマ	講師 (派遣職員名)	派遣先(主催)	日程
1	障害保健福祉関係機関新人・新任職員研修 「精神障害の特性」	清水 寛之	健康福祉局 障害計画課	5月10日
2	精神障害者ホームヘルパー養成研修 「地域の精神保健福祉の現状と 精神障害に関する社会資源」	清水 寛之	公益社団法人 かながわ福祉 サービス振興会	7月5日
3	桜の風もみの木ユニット職員研修 「精神保健福祉法の基礎知識」	反町 裕 清水 寛之	桜の風もみの木ユニ ット	6月24日
4	ゲートキーパー養成研修	廣田 菜津子 清水 寛之	JFEスチール	10月1日
5	多摩区民生委員児童委員協議会 全体研修会 「心のケアが必要な方等への対応につ いて」	清水 寛之	社会福祉法人 川崎市多摩区 社会福祉協議会	1月27日
6	ゲートキーパー養成研修 「気づいていますか？ こころのサイン」	廣田 菜津子	かながわ協会けんぽ	10月10日

7	ゲートキーパー養成研修 「・自殺の現状 ・自殺を考える人の背景と心理 ・ゲートキーパーとしての対応」	小高 真美 (武蔵野大学)	パレールビル(12/2) たじま家庭支援センター(12/2) 麻生区役所(12/9) ホッとスペース中原 (12/9)	12月2日 12月9日
8	ゲートキーパー養成研修 こころのサポーター 「ゲートキーパー講座」	西村 由紀 (特定非営利活動法人 メンタルケア協議会) 廣田 菜津子	川崎市福祉人材 バンク	12月10日
9	ゲートキーパー養成研修 「知っておきたい！！ 精神保健と相談技法」 「やってみようゲートキーパー」	小杉 敦子 (県精神保健福祉セン ター) 鈴木 剛 橋本 貢河 (精神保健課) 廣田 菜津子	神奈川県司法書士会	1月16日
10	学校出前講座 「薬物乱用・依存症とは ～正しい理解とその対応～」	大塚 俊弘 (こども未来局)	川崎市立南河原 中学校	6月1日
11	学校出前講座 「薬物依存の実態」	岡崎 重人 (特定非営利活動法人 川崎ダルク支援会)	川崎市立川崎高等学 校定時制	6月26日
12	学校出前講座 「自殺の現状と思春期の心」	川本 静香 (山梨大学)	川崎市立はるひ野 中学校	7月17日
13	学校出前講座 「薬物の危険性を体験談から学ぼう」	奥秋 匡史 (川崎ダルク)	川崎市立川崎総合 科学高等学校	10月9日
14	学校出前講座 「性の多様性について」	認定特定非営利 活動法人 ReBit	川崎市立川崎高等学 校定時制	12月24日
15	自死遺族電話相談員研修	秋田 整 (全国自死遺族総合支 援センター) 廣田 菜津子	川崎いのちの電話	2月1日
16	たじま家庭支援センター研修会 ひきこもりの理解	家高 克行	たじま家庭支援 センター	7月19日

17	発達相談支援センター 家族教室 ひきこもりの理解	家高 克行	発達相談支援 センター	11月7日
18	中学校校内支援体制構築推進会議 ひきこもりの理解	家高 克行 河西 将一	教育委員会	11月22日
19	第5回障害者相談支援センター等合同 連絡会 ひきこもりの理解	家高 克行	健康福祉局地域包括 ケア推進室	12月13日
20	麻生区社会福祉協議会在宅福祉サービ ス部会研修会 ひきこもりの理解	家高 克行 河西 将一	麻生区社会福祉協 議会	1月29日
21	たじま家庭支援センター研修会 ひきこもりの理解	家高 克行	たじま家庭支援セン ター	1月31日
22	神奈川県MSW協会社会活動部川崎ブロ ック交流会 ひきこもりの理解	家高 克行 河西 将一	神奈川県医療ソーシ ヤルワーカー協会	2月5日
23	大師保護課ケースワーカー向け研修 「こころの相談所とは？」	佐野 由美	こころの相談所	2月21日
24	アルコール依存症対応力向上研修	山本 友晃	川崎区役所	8月15日
25	多様化する依存症問題に対応する 人材育成研修	松島 敦子	NPO法人 回復はどこにでもある	9月15日
26	川崎マックセミナー 「うつと自殺と依存症 地域の取組」	松島 敦子	川崎マック	11月5日
27	精神保健福祉業務従事者業務検討会	柴崎 聡子	川崎市医師会館	1月16日
28	地域福祉関係研修	山本 友晃	川崎市社会福祉協議会	1月23日
29	きまっしー障害基礎講座 「精神障害について」	矢崎 知瑛 (井田障害者センター)	社会福法人みのり会 生活支援センター きまっしー	10月17日
30	はるかぜセミナー (衛生教室)	鶴見 亜呂 (井田障害者センター)	はるかぜ	6月24日
31	たんぼぼ交流会	鶴見 亜呂 (井田障害者センター)	アルコールケア センターたんぼぼ	10月25日
32	鷺ヶ峰包括研修	塚田 和広 (井田障害者センター)	鷺ヶ峰 包括支援センター	12月10日
33	宮前区アウトリーチの専門家に学ぶ HowTo 精神科訪問診療	塚田 和広 (井田障害者センター)	宮前区役所地域みま もり支援センター高 齢障害課精神保健係	1月29日

34	8050 問題からみる ひきこもり支援について	塚田 和広 (井田障害者センター)	宮前区地域包括支援 センター	1月31日
35	川崎市初級障害者スポーツ指導員養成講習会	原島 淳 (南部地域支援室)	川崎市障害者スポーツ 協会	9月22日
36	かながわDPAT研修	山田 敦 原島 淳 (南部地域支援室) 塚田 和弘 (井田障害者センター) 鈴木 剛 (精神保健課)	神奈川県精神保健福 祉センター	11月30日 12月1日
37	かながわDPAT技能維持研修	原島 淳 (南部地域支援室)	神奈川県精神保健福 祉センター	2月2日

4 組織支援・連携協力

表II-5

	組織・団体名	概要
1	神奈川県精神障害者 スポーツ大会実行委員会	神奈川県内の精神障害者にスポーツ活動の場を提供するとともに、精神障害者の社会参加及び自立を促進する。
2	神奈川県精神障害者 ホームヘルパー研修企画委員会	精神障害者に対して支援を行うホームヘルパーの育成を図る研修企画等を行う。
3	かわさきののちの電話	市民に広くメンタルヘルスに関する知識を普及するため「こころの健康セミナー」を共同で実施。 9月28日(土)、参加者177名。
4	かながわ自殺対策会議	司法・医療・福祉・民間、行政関係機関等。様々な分野の多角的な検討を行うことを目的に、神奈川県・横浜市・相模原市・川崎市の4県市で共同開催。 7月17日(水)、10月24日(木)。
5	川崎市福祉人材バンク	こころの不調を抱える人や自殺に傾く人のサインに気づき、声かけや支援につなぐ役割を担う「ゲートキーパー」研修の実施。 12月10日(火)、参加者26名。
6	川崎アディクションフォーラム	市内依存症回復施設や自助グループ等が市民等に対してアディクション問題に関する普及啓発を目的としたフォーラムを実施。実行委員会8回。2月8日(土)フォーラム当日参加者245名。
7	多摩区精神保健福祉連絡会	多摩区の医療・福祉・行政機関が精神保健に関する普及啓発を目的に年1回の講演会を開催。 ※百合丘障害者センター
8	川崎マック運営委員会及び協力委員会	地域活動支援センター川崎マック運営委員会には年3回出席。協力委員会は、地域連携を目指した会議であり、年3回出席。
9	K-GAP (かわさきギャンプラズ アディクションポート) 協力委員会	ギャンプル依存症回復支援施設の運営支援にて、年5回出席。(一回中止)

10	社会福祉法人アピエ	定例事例検討会に参加し、意見交換した。 ※井田障害者センター
11	宮前区精神保健連絡会	宮前区域を中心に精神保健に関わる福祉・医療・行政機関が情報交換や普及啓発等を目的に実施。 ※井田障害者センター
12	中原区役所地域みまもり支援センター 精神保健福祉業務運営会議	中原区の医療・保健・福祉・警察等の各機関が地域でみまもる関係づくりと支援体制を構築し、精神保健福祉支援業務を円滑に実施することを目的に開催。 ※井田障害者センター
13	たかつ心のパワーアップセミナー	高津区域を中心に精神保健福祉に関わる福祉・行政機関が実行委員となり、普及啓発を目的に年1回セミナーを開催。 ※井田障害者センター及び精神保健福祉センター
14	川崎区機関連携会議	定期事例検討会に参加し、意見交換した。 ※南部地域支援室
15	幸区多職種で集うサロン 「ドラゴン・マリアージュ」	定期事例検討会に参加し、意見交換した。 ※南部地域支援室

5 精神保健福祉相談

(1) こころの電話相談

平成 14 年度の精神保健福祉センター開設時から「こころの電話相談」を開始し、平日の 9 時から 16 時まで、市民を対象とした匿名での電話相談を行ってきたが、市民サービス拡充のため、平成 26 年度から開設時間を平日の 9 時から 21 時までに延長して電話相談を行っている。

表Ⅱ - 6 相談者続柄

	件数	本人	家 族							その他
			計	父	母	配偶者	同胞	子	その他	
令和元年度	5,021	4,749	232	22	121	46	26	17	0	40
平成 30 年度	5,120	4,855	226	14	114	37	31	30	0	39
平成 29 年度	4,609	4,360	212	12	100	44	34	22	0	37
平成 28 年度	4,649	4,391	207	11	101	48	29	18	0	51
平成 27 年度	5,015	4,697	254	13	126	39	41	35	0	64
平成 26 年度	3,532	3,150	262	8	75	49	19	111	0	120

表Ⅱ - 7 相談者及び対象者性別

計	相談者			本人		
	男	女	不明	男	女	不明
5,021	1,748	3,273	0	1,805	3,209	7

表Ⅱ - 8 対象者の住所

計	市内	市外	不明
5,021	4,816	188	17

表Ⅱ - 9 相談経路

計	初めて	2 回目	常連(3 回目以上)	不明
5,021	1,102	2,526	1,255	138

表Ⅱ - 10 相談内容

計	精神的な 病気・障害に 関する事	行動上の問題 に関する事	依存に 関する事	対人関係及び 心理的な事	制度・福祉・ 暮らしの事	児童・教育に 関する事	人権に 関する事	その他
5,021	751	150	37	3,323	405	45	5	305

表Ⅱ - 11 対象者受診歴

計	受診歴あり				なし	不明
	小計	通院中	入院中	現在なし		
5,021	3,689	3,199	9	481	257	1,075

表Ⅱ - 12 受診歴ありの診断名

計	統合失調症	気分障害	人格障害	不安障害	てんかん	アルコール依存症	嗜癖	摂食障害	発達障害	その他	不明
3,689	1,264	834	11	126	26	9	8	12	227	131	1,041

表Ⅱ - 13 自殺関連の相談

計	自殺関連あり	自殺関連なし
5,021	162	4,859

(2) 特定相談及びその他の相談

ア 特定相談

表Ⅱ - 14 相談件数

相談総数	相談実数
624	514

表Ⅱ - 15 相談種別件数

計	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	摂食障害	うつ・うつ状態	その他
624	5	0	168	65	34	1	8	4	142	197

イ 性同一性障害相談

教育委員会、児童相談所とともに、精神保健福祉センターにも相談窓口を設置している。

相談内容としては、医療機関等の情報、性同一性障害についての知識、これまでの悩み・苦しみ、家族や職場へのカミングアウトや理解、性別変更などの法律関連など多岐に渡る。

表Ⅱ - 16 相談者数

相談者 (延)	相談者 (実)	市内	市外	不明
8	8	7	0	1

ウ メール相談

平成27年2月より、アルコール・薬物等の依存症、社会的ひきこもり相談の受付方法を広げ、情報提供や継続支援につなぐため、精神保健福祉センターのホームページ上にメール相談窓口を設け、相談を開始した。メール相談は原則1回限りとし、適切な部署・機関による電話・面接相談につなげている。

表Ⅱ - 17 令和元年度相談者数

	本人	家族	計
アルコール・薬物	8	5	13
社会的ひきこもり	3	2	5
女性のための依存症 電話相談	5	1	6

(3) 家族セミナー

ア アルコール依存症家族セミナー

- 対象：家族のアルコール問題で困っている方
- 内容：講義と参加者のわかちあいの形式。アルコール依存症についての知識と家族の対応の学習及び家族同士の問題共有と支え合い。プログラムは6回シリーズで構成（年間2コース）。
- 講師：朝倉 芳（大石クリニック）

表Ⅱ - 18 参加者数

開催回数	参加者（延）	参加者（実）
11	80	18

イ うつ病家族セミナー

- 対象：うつ病と診断されて治療中の人の家族
- 内容：「うつ病・認知行動療法を知ろう」をテーマに、講演会形式にて2回連続講座を実施した。
- 講師：①うつ病を知ろう：張 賢徳（帝京大学医学部附属溝口病院）
②認知行動療法を知ろう：水野 康弘（帝京大学医学部附属溝口病院）

表Ⅱ - 19 参加者数

開催回数	参加者（延）	参加者（実）
2	67	39

ウ 薬物・ギャンブル問題家族セミナー

- 対象：家族の薬物問題で困っている方
- 内容：講義と話し合いの形式による。薬物依存症の知識と家族の対応についての学習及び家族同士の問題共有と支え合い。回復への体験談を聞く機会も設けている。
- 講師：山村 桂子（大石クリニック）

表Ⅱ - 20 参加者数

開催回数	参加者（延）	参加者（実）
11	32	14

(4) だるま〜ぷ

平成25年度に、国立精神保健研究所薬物依存症部の協力を得て、アルコール・薬物依存症者に対して認知行動療法的プログラム「だるま〜ぷ」を制作し、平成26年度より実施している。プログラムは前期後期の2コースで、各10回シリーズで構成しており、川崎マックなど市内の依存症回復支援施設の協力を得て実施している。

表Ⅱ - 21 参加者数

開催回数	参加者（延）	参加者（実）
20	130	12

6 地域移行・地域定着支援、医療観察法

(1) 地域移行・地域定着支援

地域移行・地域定着支援体制整備担当は、精神障害者の地域移行・地域定着支援がスムーズに実施されるよう生活保護・自立支援室が所管する生活保護精神障害者地域移行推進員と協働し、広域調整や医療機関と地域関係機関との連携、主に市外病院の個別支援の調整等の役割を担ってきた。

ア 実施体制

他業務も含めて統括する係長1名、職員1名（正規）の体制で、生活保護精神障害者地域移行推進員1名（非常勤）と協働して実施した。

イ 業務実績

業務として、個別支援にかかわる窓口及び調整業務、川崎市地域自立支援協議会精神障害者地域移行・地域定着支援部会の運営に係る事務局の一員としての業務、井田地域生活支援センターはるかぜとの協働としてのピアサポーター講座・フォローアップ研修及び、事業の普及啓発としての病院での事業説明会の開催、福祉事務所に出席しての地域移行支援に係る事業説明及び巡回相談等を行ってきた。また、厚労省の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業・川崎市における北部圏域での地域連携支援事業において密着アドバイザー及び事務局的役割を担った。

表Ⅱ-22 相談件数

	計	生活保護	生活保護以外
医療機関	193	81	112
高齢・障害課	136	64	72
障害者相談支援センター	268	42	226
保護課	161	161	
本人	15	2	13
計	773	350	423

表Ⅱ-23 訪問、ケア会議回数

	計	生活保護	生活保護以外
医療機関	68	38	30
関係機関	56	45	11
本人	0	0	0
来所	6	1	5
計	130	84	46
ケア会議	16	14	2

表Ⅱ-24 問い合わせ件数（インテーク）

	継続			新規			帰結			次年度継続		
	計	市外	市内	計	市外	市内	計	市外	市内	計	市外	市内
男	3	3	0	16	9	7	16	9	7	3	3	0
女	1	1	0	6	5	1	5	4	1	2	2	0
計	4	4	0	22	14	8	21	13	8	5	5	0

表Ⅱ-25 相談帰結状況（市外病院からの依頼）

	計	退院	はるかぜへ	他機関へ	問合わせ等	次年度継続
男	9	2	1	1	5	3
女	4	0	1	0	3	2
計	13	2	2	1	8	5

表Ⅱ-26 相談帰結状況（市内病院からの依頼）

	計	退院	はるかぜへ	他機関へ	問合わせ等	次年度継続
男	7	1	3	1	2	0
女	1	0	0	0	1	0
計	8	1	3	1	3	0

表Ⅱ-27 川崎市地域自立支援協議会 精神障害者地域移行・地域定着支援部会

	開催日	参加数
1	4月17日	34名（内 センター職員3名）
2	6月19日	34名（内 センター職員3名）
3	8月28日	36名（内 センター職員5名）
4	10月16日	33名（内 センター職員4名）
5	12月18日	32名（内 センター職員3名）
6	2月19日	36名（内 センター職員4名）

表Ⅱ-28 川崎市地域自立支援協議会 精神障害者地域移行・地域定着支援部会事務局会議

	開催日	参加数
1	4月10日	11名（内 センター職員2名）
2	5月8日	12名（内 センター職員2名）
3	7月10日	12名（内 センター職員2名）
4	9月11日	12名（内 センター職員2名）
5	11月13日	12名（内 センター職員2名）
6	1月8日	13名（内 センター職員2名）
7	3月25日	中止

ウ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業

厚生労働省の事業に川崎市も参画し、北部（多摩区、麻生区）圏域をモデル圏域として地域連携支援事業を行うと同時に、今年度から中部圏域においても地域連携支援事業を開始した。地域移行・地域定着支援体制整備担当は、都道府県密着アドバイザーの一員として、また、事務局としての役割を担った。

表Ⅱ-29 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業

川崎市における北部圏域・中部圏域での地域連携支援事業の取り組み アドバイザー(AD)会議

	開催日	参加数
1	6月26日	3名（内 センター職員1名）
2	8月21日	3名（内 センター職員1名）
3	9月11日	5名（内 センター職員2名）
4	10月31日	5名（内 センター職員2名）
5	1月30日	7名（内 センター職員2名）

(2) 医療観察法対象者への地域支援

ア 実施体制

心身喪失者等医療観察法に伴う地域支援は、地域社会における処遇のガイドライン（平成17年4月法務省作成）に準拠して行っている。医療観察法対象者へのコーディネートは横浜保護観察所の社会復帰調整官が行うこととなっているが、地域処遇においては医療面だけでなく生活上の支援を行うことも極めて重要であることから、対象者への安定・継続した支援を行う必要性を考慮し、保護観察所より協力依頼を受けた初期段階から市内3か所に設置する障害者センターを中心に関わりを持つこととしている。実際の支援はケア会議で決定されるが、各区保健福祉センターや相談支援事業所と協力して定期的な家庭訪問を行い、生活状況を把握するほか、関係機関と連絡を密に取り、対象者が安定した地域生活が営めるよう様々な相談支援を行っている。

当センターでは、市全域の医療観察法対象者の状況把握を行うとともに、当市の医療観察法に関する窓口として保護観察所との連絡調整を担っている。

（実際の支援内容は障害者センターの業務実績P39, 42, 46を参照。）

イ 関係機関会議

市全域の医療観察法対象者の状況把握を行うとともに、当市の医療観察法に関する窓口として保護観察所との連絡調整を担うため、市内3か所の障害者センターとともに関係機関との会議に参加した。

- ・神奈川県司法精神医療福祉ネットワーク会議・・・4回
- ・保護観察所地域連絡協議会・・・1回
- ・医療観察制度運営連絡協議会・・・1回

7 ひきこもり・思春期相談

社会的ひきこもり対策事業と特定相談事業の思春期相談を担当。

明らかな精神障害のない18歳以上のひきこもりのご本人・ご家族への支援、相談機関等への機関支援、普及啓発及び調査研究等を実施。障害が疑われるひきこもりの場合等は、障害者センター（更生相談所南部地域支援室、井田障害者センター、百合丘障害者センター）のひきこもり担当と連携。

また、概ね16歳以上の思春期の精神保健相談及び思春期精神保健に関する機関支援を実施。

(1) 社会的ひきこもり対策事業

ア 全支援状況

表Ⅱ-30 実件数

			小計A	小計B	合計
新規相談	相談のみ（終了）	192	246	192	301
	継続支援（ケース登録）	54		109	
前年度繰越	継続支援（ケース登録）	55	55		

表Ⅱ-31 年代別実件数

10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	不明	計
36	102	55	45	28	2	1	32	301

表Ⅱ-32 相談者別実件数

家族親族									当事者	関係機関等	その他	計
母	父	両親	きょうだい	祖母	祖父	祖父母	パートナー	その他				
106	31	7	24	3	1	0	3	16	61	41	8	301

表Ⅱ-33 相談支援延件数

電話	メール	来所	訪問 (アウトリーチ)	計
269	6	3	884	1,162

表Ⅱ-34 その他の支援延件数

当事者グループ	家族グループ	多機関連携	郵送・他	計
166	20	80	14	280

イ 新規相談状況

表Ⅱ - 35 実件数

電話	メール	来所	計
237	6	3	246

ウ 継続支援（ケース登録）状況

表Ⅱ - 36 性別実件数

男	女	その他	計
92	17	0	109

表Ⅱ - 37 年代別実件数

10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	計	※平均年齢
14	51	22	15	6	1	0	109	29.9歳

表Ⅱ - 38 地区別実件数

川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生	市外	計
24	17	18	16	12	13	9	0	109

表Ⅱ - 39 受付時点におけるひきこもり延期間別実件数

3年未満	3年以上 6年未満	6年以上 9年未満	9年以上 12年未満	12年以上 15年未満	15年以上 18年未満	18年以上 21年未満	21年以上	計
33	28	14	15	3	5	3	8	109

※相談開始時における平均ひきこもり延期間 7年1ヶ月

表Ⅱ - 40 当事者グループ活動状況

	実施回数	参加延人数			
		男性	女性	その他	計
集団療法的グループ	38	121	0	0	121
うち、プレグループ	0	0	0	0	0
作業系グループ	27	45	0	0	45
合計	65	166	0	0	166

表Ⅱ - 41 家族グループ活動状況

	実施回数	参加延人数			
		母親	父親	その他	計
家族教室	1	12	4	0	16
家族懇談会	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	1	12	4	0	16

エ 各事業状況

表Ⅱ - 42 事業別一覧

事業名・講師名	参加 延人数
ひきこもり相談スーパーバイズ 寺田 久子 (桜町病院)	78
ひきこもり市民講演会「みんなで考えるひきこもりの支援」 古茶大樹 (聖マリアンナ医科大学病院) 池上正樹 (KHJ 全国ひきこもり家族会連合会) 西野博之 (フリースペースえん・たまりば) 稲垣篤哉 (ひきこもり経験者)	100
研修講師派遣「第2回精神保健福祉業務従事者業務検討会」	6
研修講師派遣「たじま家庭支援センター研修会」	47
研修講師派遣「発達相談支援センター 家族教室」	25
研修講師派遣「中学校校内支援体制構築推進会議」	10
研修講師派遣「第5回障害者相談支援センター等合同連絡会」	55
研修講師派遣「麻生区社会福祉協議会在宅福祉サービス部会研修会」	25
研修講師派遣「たじま家庭支援センター研修会」	28
研修講師派遣「神奈川県 MSW 協会社会活動部川崎ブロック交流会」	36

オ その他

○「川崎市における広義のひきこもり支援ニーズ調査」実施 → 37 ページ

(2) 思春期相談 (特定相談事業)

ア 相談状況

実数…104 ケース、延相談件数…104 件